

「やすくに活世塾」 第五回講座を開催

去る十二月一日に、拓殖大学学事顧問・元学長の渡辺利夫氏わたなべとしおにより『血脈、天皇、そして日本』というテーマで「やすくに活世塾」第五回講座が開催された。

登壇後はまず、資料として配布された同氏の祖父一家が写る明治三十八年の古写真を示しながら、祖父の胸に勲章や従軍記章が佩用されている事を指摘し、祖父は日清・日露両戦役に従軍した事が解り、さらに同氏から数えて三代前の事象は、さほど遠くない過去の出来事であり、私という個人は先祖から連綿とつながる血脈の中を生



講義する渡辺講師

きており、そして現在の私が存在すると述べた。

次に日本という国家について触れつつ大きく分けて二点の特徴がみられるとし、一点目が同質的と定義し日本人が他国で使われない言語を話し、極めて同種の人々で国家を形成している事。二点目が連続的と定義し伊勢の神宮の式年遷宮や他国から支配された経験のない連続した歴史、また、建国から途絶えたことのない皇室を例に挙げた。

更に同氏は、先に述べた自分自身の家族の歴史及び血脈の中に連綿と続く万世一系の天皇の存在を見出し、それを仰ぎ見る事により、日本人が皇室を尊いのだと感じる要因なのではないかと説明した。

最後に俳人の内藤鳴雪の句

元日や 一系の天子 不二の山

を例に出しこの世に唯一無二の存在である富士山に万世一系の天皇を仰ぎ見るという意味の句に日本人の精神的感覚が表れていると説明し講義を締めくくった。

また、休憩をささみ行われた質疑応答では、塾生からの多岐に亘る質問に対し丁寧に回答していった。